

## --- Program ---

### <1>現代とバロック

#### ●弦楽のための三楽章

(芥川 也寸志)

1 Allegro 2 Andante 3 Presto

#### ●ヴァイオリン協奏曲「四季」から「春」全楽章

(A.ヴィヴァルディ)

【独奏 澤田まさ子】

1 Allegro 2 Largo 3 Allegro

### <2>編曲の実験室：

#### 「〇〇風」アレンジの試み

#### ●「クラリネットこわしちゃった」変奏曲

(作曲：島崎 洋)

- 1 主題
- 2 ロシア民謡風
- 3 沖縄音楽風
- 4 ピアソラ風
- 5 マントバーニー風
- 6 クールファイブ風
- 7 プレスリー風

### <3>シンフォニーに初挑戦

#### ●交響曲第29番イ長調K.201

(W.A.モーツァルト)

- 1 Allegro Moderato
- 2 Andante
- 3 Menuetto
- 4 Allegro con spirito

### Stage1 古典とバロック

#### ●弦楽のための三楽章（トリプティック）

(芥川 也寸志)

1 Allegro 2 Andante 3 Presto

芥川 也寸志は、日本を代表する文豪 芥川龍之介の三男として東京に生まれました。2歳の時に父を亡くしますが、幼い頃より父の遺品であるSPレコードを愛聴し、とりわけストラヴィンスキーに傾倒したようです。そんな也寸志が、1953年28歳の時に作曲した弦楽合奏曲です。

「三連画」を意味する「トリプティック（トリプティック）」という題名でも知られ、1955年には、ワルシャワ音楽賞を受賞しました。1956年には、当時まだ日本とは国交がなかったソ連の国立音楽出版から楽譜が出版され、当時のソ連で楽譜が公に出版された唯一の日本人作曲家となりました。

「急—緩—急」といった全体の構成の中には、和太鼓の連打や赤穂浪士を連想させる大変日本的なメロディーが随所に登場します。也寸志の娘のために書かれた2楽章の子守歌の中間部では、楽器本体を手で叩く「Knock the body」という特殊奏法が用いられています。

3年程前、ある大学オーケストラの演奏会で初めて耳にした曲ですが、若いエネルギー溢れる演奏にすっかり魅せられ、いつか北広島でも演奏したいと思っていた曲です。「急—緩—急」のメリハリを演奏で表現できたらと思います。

■解説：荒木 浩子（ヴァイオリン）

…

#### ●ヴァイオリン協奏曲「四季」から「春」全楽章

(A.ヴィヴァルディ)

1 Allegro 2 Largo 3 Allegro

ヴィヴァルディといえば「四季」、「四季」と言えば誰もが耳にしたことのある「春」でしょう。もともとは「和声と創意の試み」というヴァイオリン協奏曲集の中の一曲です。

この「春」にはソネットと呼ばれる14行詩が付いており、その喜び溢れる春の様子をストーリー仕立てにした標題音楽となっています。

**1.Allegro** 春が来て、小鳥さえずり泉湧く歓喜の情景。途中で春の雷鳴と稲光が訪れますが、やがて鳥のさえずりが戻ってきて、ふたたび春の喜びを謳歌します。

**2.Largo** 美しい牧場の風景。山羊飼いは春の陽気に眠り、忠実な飼い犬が鳴き交わす声（ヴィオラ）が聞こえてきます。

**3.Allegro** 光かがやく春の空の下、バグパイプ風舞曲に合わせて妖精も牧人もみな踊りだします。テーマはさまざまな変奏となってステップを踏み、幸福な余韻を残して静かに曲を閉じます。

■解説：村本 雄一（ヴァイオリン）

### stage 2 編曲の実験室：

#### 「〇〇風」アレンジの試み

#### ●「クラリネットこわしちゃった」変奏曲

(作曲：島崎 洋)

童謡「クラリネットこわしちゃった」をテーマに、いろいろな視点から「〇〇風」アレンジにチャレンジします。解説を加えながら、各変奏を1曲ずつ演奏します。

主題 「クラリネットこわしちゃった」

素材は皆さんよくご存知の童謡です。

#### 第1変奏 ロシア民謡風

～ただ転調しただけで…

テーマを短調に転調しただけでロシア風に。民謡も取り入れてみました。

#### 第2変奏 沖縄音楽風

～特徴的な音階を使えば…

特徴的な民族音階を使うことで、その地域の雰囲気を出すことができます。本日は沖縄音階（ド・ミ・ファ・ソ・シ・ド）に着目します。

#### 第3変奏 ピアソラ風

～作曲家の特徴を模倣…

作曲家が好むフレーズ、リズム、和声進行などを模倣します。タンゴの革命児ピアソラのムードが出ますか？「リベル・タンゴ」「アディオス・ノニーノ」をベースにしています。

#### 第4変奏 マントバーニー風

～滝が流れ落ちるようなストリングス…

オーケストレーション（管弦楽法）の特徴を模倣してみます。ムード音楽の大御所マントバーニーオーケストラのお家芸「カスケード・ストリングス」に挑戦です。

#### 第5変奏 クールファイブ風

～ちょっと懐かしいコーラス歌謡…

我が国の特徴的なポピュラー音楽といえば「演歌」ではないでしょうか。とても幅広いジャンルですが、本日はムード演歌の流れをくむ「クループ歌謡」を取り上げます。

#### 第6変奏 プレスリー風

～ロックン・ロールで決めましょう…

黒人霊歌などから生まれたブルース、その流れをくむロックン・ロールは、特徴的なコード進行とリズム・パッセージを持っています。変奏最後はプレスリー風でハデハデにフィニッシュです。

■解説：島崎 洋（指揮・編曲）

### stage 3 シンフォニーに初挑戦

#### ●「交響曲第29番イ長調K.201

(W.A.モーツァルト)

管楽器の皆さんにお手伝いいただき、北広弦楽としては初の試みである「交響曲」に挑戦します。

モーツァルト「交響曲29番」は、10代のモーツァルトが作曲したなかで最も完成度の高い交響曲であり、ファンの間では後期のシンフォニーにも劣らない根強い人気を持っています。アインシュタインは「小ト短調交響曲（第25番）とイ長調交響曲（第29番）はひとつの奇跡である」と評しています。

比較的管楽器の編成が小さいのも選曲の理由であり、私たちの交響曲デビューにはとてもふさわしいと思っています。どうぞ練習の成果をお聞きください。

以下、各楽章における指揮者こだわりのポイントをご紹介します。

#### 第1楽章 アレグロ・モデラート

第1・第2テーマの他にコデッタテーマを持つ緻密な構成の楽章で、強弱の指定も頻繁に変わります。最も大切にしたいのは、この楽章が持つ、ウキウキ感・幸福感だと思っています。

#### 第2楽章 アンダンテ

年齢を重ねるにつれ、モーツァルトの緩徐楽章の魅力が解ってきたような気がします。現実では忘れかけた、子供のころにあこがれた女性に夢で逢う感じ…と言ったらキザでしょうか。特に第2主題を美しく演奏したいです。

#### 第3楽章 メヌエット

モーツァルトのメヌエットはとても難しいと思います。テンポの設定からして本当に悩みます。軽快だけどエレガントな演奏ができればいいなと思っています。

#### 第4楽章 アレグロ・コン・スピリト

アグレッシブなフィナーレです。モーツァルトの若き才能が縦横無尽に駆け巡ります。コン・スピリトの解釈が難しいですが、快活さの中にも上品さを忘れずに演奏したいです。

…と偉そうに書きましたが、モーツァルトの演奏は正しい音程とリズム・強弱で弾けるようになって、ようやく3合目だと思えます。登山口の近くをウロチョロしている姿しか披露できないかもしれませんが、団員の努力に免じて大目に見てくださいね！

■解説：島崎 洋（指揮・編曲）